

# 研修費（ 竹村克司 ） 出張報告書

令和7年7月9日

氏名 竹村 克司	研修会等題名 令和7年度世界情勢からわがまちの未来をつくる～トップマネジャーの方のために～
期間 令和7年7月7日から 令和7年7月8日まで	研修会等会場（市区町村名） 滋賀県大津市

## 研修会概要・意見等

7月7日から7月8日まで、「令和7年度世界情勢からわがまちの未来をつくる～トップマネジャーの方のために～」の2日間コースに参加しました。初日は、京都大学公共政策大学院教授の中西 寛先生による「激変する世界情勢と日本の立場」という講義が1時間30分、東京女子大学現代教養学部経済系学科教授の矢ヶ崎 紀子先生の「インバウンド需要を活用した持続可能な観光地域づくり」という講義が1時間30分、どちらの講義も内容が濃く、中西 寛先生の講義は1980年代から遡り、それぞれの歴史的背景を辿りながらの解説で、各年代における日本の立場を勉強しました。日本は、1980年代は人間関係中心の制度運用が奏功した一方で、1990年代から2000年代の経済移行期に入りITテクノロジーの導入が欧米を中心に進行し、日本型の強みをもとの規模でどう維持、適用するかが問題化した。バブル崩壊後、日本企業は従来の運用を見直す必要に迫られた。2000年代には、2つの大きな政治的事件があり、911、世界恐慌、金融危機が発生し、2008年にはリーマンショックが起これ、世界の理解が不十分であったことが露呈し、世界の変化に対する理解の不備を示した。その後、新興国の台頭と国際枠組みの再編（G7からBRICSへ）が起これ、リーマンショック後の世界は新興国の存在なしでは語れず、欧米以外の経済圏の存在感が増した。2000年代は、スマホとSNSなどが一般化し、西側主導の選挙の限界が顕在化し、メディアの影響構造が大きく変わった。2010年代は、権威主義的リーダーの台頭と西側の政治的転換期となった。日本が国際政治でバランスの取れた外交を展開し、米中対立の中でも第三国との関係を拡充する必要があると、説かれました。たった50年の歴史でしたが、勉強になりました。次に、矢ヶ崎先生の講義は、訪日需要を活用した持続可能な観光地域づくりと日本、世界の旅行市場動向、インバウンド需要の構造変化と

季節、市場分散を踏まえた持続可能な地域戦略、観光をテコとした地域経済循環設計とインバウンド市場の戦略的活用、持続可能な観光地づくりとオーバーツーリズム対策、DMOの役割と財源、歴史、文化、自然、街並み等の資源を保存、価値化、活用し収益化、地域に還元するのが観光の本質であり、DMOが調整機能を担い、旅行者とサービス提供者の間で消費、交流が循環する構造を再確認でき、各地域の現状を踏まえたわかりやすい講義でした。インバウンド需要を活用した持続可能な観光地域づくりという、下関市の観光において、まさにど真ん中の講義で勉強になりました。2日目はhジョン食品海外プロモーションセンター執行役の北川 浩伸先生の「日本の食を世界へ～地方創生への道筋～」と題し、日本食品の海外ブランディング戦略と市場多角化、についての講義で、日本の農林水産物、食品の状況、センターの役割と設立背景、日本和牛の名称、表示課題とブランディング、食文化全体PRの必要性、日本の農林水産物、食品の輸出額の目標と現状、市場選定と参入戦略、一次産業の人材、生産力の課題、海外市場での価格と収益性の比較、これからの外食の海外展開という興味深い話を詳しく教えて下さり、勉強になりました。次に、松井 一實広島市長による、「国際平和文化都市の実現に向けて」というお題で、合意形成型リーダーシップと行政トップ適正評価という気の抜けない講義でした。

JIAMの研修は、大変ですが、内容も濃く、勉強になります。受講料も低料金のため、これからもできる限り参加し、市民の皆様のお役に立てるよう努力いたします。

# 激変する世界情勢と日本の立場 (20250707@JIAM トップセミナー)

中西寛 (京都大学公共政策大学院教授)

はじめにー加速する世界情勢の変動

- 2020 新型コロナ・パンデミック 北京による香港制圧
  - 2021 米議会乱入事件 アフガニスタンからの米軍撤退
  - 2022 ロシアによるウクライナ大規模侵攻
  - 2023 イスラエル・ハマス戦争の開始
  - 2024 イスラエル「抵抗の枢軸」攻勢、北朝鮮参戦、世界的現職逆風選挙
  - 2025 トランプ 2.0
- ー国際秩序はなだれの分解状況

I. 歴史的背景ーなぜこうした状況に至ったのか

1. 段階的变化

- 1980-90年代 状況判断の誤り (いまだか?)
- 2000年代 終わりの始まり
- 2010年代 終わりの加速
- 2020年代 終わりの終わり

2. 1980-90年代

- 文明の変化: 工業社会から脱工業 (金融・情報) 社会へ
- ソ連 適応の失敗と体制の破綻 転換の失敗
- アメリカ 悲観 (双子の赤字) からおごり (冷戦の勝利、金融情報産業) へ
- 中国 改革開放と天安門事件 (1989年) 69
- 日本 手工業型情報化とバブル崩壊後の迷走

3. 2000年代 二つの転機

- 2001 911事件と「テロとの戦い」アフガニスタン・イラクでの戦争
- 2008 リーマン・ショック 米国発世界恐慌の恐怖 (9月)
- その間に新興国の経済成長→2008 北京五輪と中国の自信
- 深層情報社会の開幕 (スマホと SNS)

4. 2010年代 分裂の開始

- 2012 プーチン大統領復帰 習近平体制「中国の夢」
- 2014 ウクライナ紛争・クリミア併合、2015 中国製造 2025
- 2016 英 ブレグジット (EU 離脱) 決定 米 トランプ当選
- 大国間競争、反グローバリズム

249 57

259 110